



発行所 安芸郡芸西村 芸西病院 TEL 0887(33)3833
発行責任者 山崎一明
http://okura-kai.com/geisei/



「長所」⇕「短所」

事務局長 田岡大史

ワークライフバランスの考え方が普通になってきた昨今、仕事に対する向き合い方も悩みもずいぶんと変化してきているように感じます。一方で、私がワークライフバランスという言葉を知ったのは2012年。まだまだ自分の働き方は、「ワークとライフがごっちゃませ」になつていて、人に押し付けられないように気を付けつつ、仕事と人生に向き合っているところです。

ワークという部分では、事務局長という肩書をもらっている私は、事務業務の統括という仕事をしています。責任あるポジションですので本当にやりがいだらけなのですが、その中でも好きな仕事のひとつが「採用面接」です。私の仕事場はもっぱら事務室になるので、なかなか職員のみなさんと業務を一緒に行うことがありません。だからこそ、「採用面接」の短い時間を使って、入職してくださる職員さんを出来る限り深く理解するために、また、この時間を使って、私という人間を覚えてもらうために必死で向き合っています。たまに必死過ぎる、私の自己PRが長くなりすぎることもあり、反省することもしばしばですが、私にとって本当に大切な時間になっています。

◇ナルシスト↓自分の強みを知る
◇八方美人↓交友関係が広い
他にもたくさんあります
が、こうしてみると、その人の傾向をどうポジティブにとらえるかで、印象もずいぶん変わってきます。ちょっと見方を変えるだけで、苦手な人とも接しやすくなるのです。私が尊敬している方々は、このポジティブ変換を上手く利用している方ばかり。こういう考え方が出来れば、人間関係のトラブルもずいぶん減るかと思えますし、また自分のことも好きになれるのではないのでしょうか。



人性格だけでなく、モノにも出来事にもあてはまり、どの方向から見ると、見え方が変わってきます。絶えず、良い側面を見つける
気持ち忘れず、身の回りの全てを長所に変換するプラス思考で、ワークとライフを楽しんで充実させていきたいものです。
一つ目の説明に必死過ぎて、二つ目の「雑談力」のスペースがなくなってしまう。機会があれば、雑談について思うことを必死に説明させていただきたいと思えますので、その折にはお付き合いいただけると幸いです。

大崎医師 休診のお知らせ
令和5年10月10日より、精神科の大崎医師がしばらくの間お休みとなります。10日以降の大崎医師の外来担当(診察担当医※参照)は、別の医師の診察となります。すことをご了承ください。
新しい外来担当医は、決まり次第院内掲示やホームページ等でお知らせ致します。ご確認ください。

外来診察担当医 令和5年5月1日より

内科	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山崎(第1)	岩崎(第3)	山崎	八木	清藤(第1-3) 八木(第2-4-5)	山崎	八木	八木	山崎	山崎	麻生	休診	休診
八木(第2-4-5)	※大崎	赤尾	大畑	藤戸良輔	※大崎	廣瀬	内野	交代制	交代制	交代制	休診	休診

芸西病院

地域に密着した新しい音楽療法への取り組み

―古民具やレコードの調べにのせて―



音楽療法室

音楽療法士

繁谷 美穂



音楽療法の時に患者さんからよくリクエストされる曲が沢山ありました。また、目から鱗の古民具の数々…。気づいたら「お借りしたいですー」と口に出していました。資料館や村の許可をいただき、温かいご厚意の元で民具8点とレコード16点を特別に借用させていただくこととなりました。

さかのぼること6月のとある日。2B病棟の堀田師長から「今、芸西村の文化資料館SPレコード展をしゅつと。文化資料館には昔の民具も沢山あるから、音楽療法や回想法（作業療法プログラム）で使えるんじゃない？」と声をかけてもらいました。私は恥ずかしながら文化資料館に伺ったことはありませんでした。が、「善は急げー」と作業療法士の田野岡と共に、資料館の門戸を叩いてみました。

すると、そこには1000枚以上のレコードが！「お富さん」「さざんかの宿」など、



実際にそれらを音楽療法で活用してみると、（薬箱を見て）昔



の話は弾みました。またレコードも「当時は380円や500円くらいで買った気がする。」昔は大きな蓄音機を手で回して聴いたねえ」などと実物ならではの五感がフルに刺激されたようで、セッションはいつも以上に盛り上がり、笑顔が溢れる時間に大きな手応えを感じました。

そんな様子を文化資料館に報告すると館長も大変喜んで下さり、そこからとんとと話が進んで、あれよあれよと8月30日、高知新聞の取材の日を迎えました。



グループホームでの取材当日も入居者の皆様はリラックスした雰囲気できれやかに過ごされ、あっという間にセッションは終了。インタビューでは入居者の方と大笑いしながら、良い時間を過ごせました。活動の様子が新聞掲載されたことは、決して私だけの力ではなく、沢山の温かいご縁が重なったからだと思えます。これからもそのご縁を大切にしていけるとともに、今後は他の民具・レコードもお借りする手配も整いましたので、患者さん利用者さんにおかれましてはこれからの音楽

QR code and text: 高知新聞9月6日の新聞記事はこちら



芸西村文化資料館 堀田幸生さんと

療法や回想法（作業療法プログラム）を、どうか楽しみにお待ちください。最後に、民具・レコードを資料館に寄贈していただいた芸西村民の皆様、借用を快く了承いただきました芸西村文化資料館、芸西村教育委員会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

夏休み工作教室を開催しました

外来 看護師

志磨村 透江

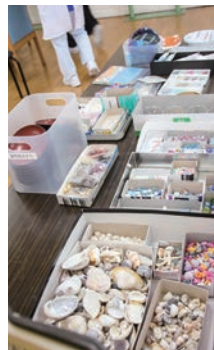


8月5日(土)午後、当院外来リハビリ利用者(小学生)を対象に工作教室を行いました。

リハビリを利用して子ども達に、作品づくりを通して自己表現を行う場を提供し、形に残る物を作ることで得られる達成感や、作業の過程の中でのコミュニケーション(ほめる、質問する等)を通して培う自己肯定感、それらが子ども達の成長発達の助けになればと考え企画しました。また、保護者の方にとっても、子どもさんとの思い出作りやこれで夏休みの宿題が一つ終わる!という安堵感を味わって欲しいという思いも

ありました。

当日は子どもさん10名、保護者6名が参加してくれました。様々な素材を、自分で自由に選ぶことができるよう準備しました。使用した貝殻や



シークラスは職員が海で拾ってきたものです。患者さんや職員からビーズや手芸品の寄付もあり、とても華やかになりました。

工作教室が始まると、子どもさんたちは保護者の方と相談しながら、和やかに落ち着いてコツコツと作業する姿がみられました。おしゃべりの中から新しいことを思いつい

たりと、どれもオリジナリティー溢れる素敵な作品に仕上がりました。



後日、保護者の皆様よりアンケートへの回答を頂きましたが、「リハビリ室という慣れた環境だったからか、黙々と集中した姿を見られて驚きました」「沢山の材料が選べ、ワクワクした様子でした。仕上がった作品がイメージ通りにできたようでとても満足しているようです」「子どもたち3人の夏休みの思い出が作



れよかったです、またやりたいです」「親も楽しかったです」等々、楽しんでいただけたようでホッとしました。

初めての試みでしたが、リハビリ・相談室・外来・レントゲン室など多職種が連携して準備を行いました。何より子ども達の楽しそうできいきとした表情を見ることができ、私達職員も仕事に対する意欲が高まりました。短い時間ながらこの場を共有できたこと、感謝しています。

次回の開催を、ぜひ楽しみにして頂けたらと思います。ありがとうございました。



ふれあい看護体験

看護副部長 田村 文佳

8月1日にふれあい看護体験を実施しました。これは看護の現場の見学や体験を通して、看護への関心を高め理解を深めてもらうためや、多職種との交流により医療や看護の在り方を考えることを目的に、高知県看護協会が主催しています。

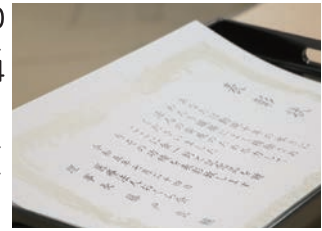
今年高校生3名の参加があり、内科病棟やリハビリテーション棟において約半日、実施をしました。主な内容は、法人の紹介、血圧測定の実験、アロマハンドマッサージの実施、リハビリの見学です。はじめは緊張していた参加者の方の表情も少しずつほぐれ、次第に笑顔が見られました。手と手が触れ合う温かさや、香りのリラククス効果を存分に体験できたのではないかと思います。

初々しく、可愛らしい高校生の姿に癒されると同時に、どの部署へ行っても、職員が暖かく迎えてくれるというとても嬉しい時間を持てました。来年もぜひ実施したいです。



令和5年度

永年勤続表彰者21名!



令和5年度の永年勤続表彰では、勤続30年3名、勤続20年4名、勤続10年14名と合計21名の職員が受賞となりました。

ここでは3名の職員に勤続表彰に伴い思うことを記してもらいました。



A棟

介護職員 **有光 広美**

先日は業務の中で、永年勤続表彰をしていただきましてありがとうございます。思い返すと右も左もわからないまま義理の姉に紹介されて平成5年に就職してきました。人事異動では各部所で親切な先輩たちに手取り足取り教えていただきながらの勤続中、当時、病棟師長だった西原看護副部長さんより「看護学校へ入学し看護師をめざしてみないか…」という話をいただいたことがあります。



精神デイケア

主任代行 公認心理師 **石丸 茂偉**

平成15年4月入職の新入職員研修受講者は22人、平成25年10年勤続表彰受賞者は7人、そして今回の20年表彰が4人。一つの職場で長く働き続けることは簡単ではないにも関わらず、あまり器用では

た。正直、勉強は不得意な私は折角勤めてくれた好意に伝えることができませんでした。しかし、のちにヘルパー2級取得の機会があり、通常業務終了後に講習・実技・実習に参加して4回のレポート提出。その都度、添削もあって合格ライン点数を達成して取得しました。もっと今以上に…というスキルアップは望まぬまま看護助手一筋。与えられた仕事のほか、患者さんの手助けや力になりたいと勤続して30年経過しました。ここまで続けられたことに自分でも驚いています。そして自分で言うのも可哀しいですが誇りに思っています。

この20年間で振り返ってみて、仕事での数多くの失敗はもちろんのこと、一年目の当時から部署の先輩・同僚と「行きは救急車」、「戻りは徒歩」な旅行を経験したこと等、紙面では書き切れない色々な事がありました。

その他、県外より単身高知に来た私がこの20年で大きく変わったことと言えば…結婚し家族が増えマイホームを購入したことです。勤続年数は長くなってきましたが、住戸ローンの返済年数…こちらはまだまだ新米です(汗)。最後に、20年の在職を支えてくれた患者さん、職員の皆様へ感謝と共に、これまでの人生の約半分の時間を過ごさせていただいた事だけに留まらず、妻との出会いの場もいただいた芸西病院には本当に感謝しています。健康を気にしなければいけない年齢にもなってきましたが、これからも地道に努力をしていくことで、一つの場所で今与えられた役割をやり遂げる大切さを今度は親になった自分も子どもに見せていければと思います。



1階内科病棟

看護副師長 **安岡 杏奈**

この4月でやっと勤続10年を迎える事ができました。え？まだ10年？との声も聞かれますし、自分でもそう思います。看護師の免許を取得し、すぐに託児を併設している芸西病院に就職しました。自身と芸西病院の繋がりは乳児期から始まっており、看護師だった母が当院で働いていた時、私は院内のむつき保育園で0歳からお世話になっておりました。自我の発達著しい3歳の頃には、「バスの運転手さん相手に「乗ーりーたーい」と駄々をこねては村内バ

スに乗車させてもらったりと病院システムを謳歌していたそうです。

小さい頃の私をみて下さっていた職員の方は、あの子がこんな大人になって！と驚かれる方も多く、そんな幼い頃からお世話になっている芸西病院で、自身も3人の子育てをし、パート期間を経て勤続10年。「アットホームな雰囲気と、子育てのしやすさ」という当院の売りは身をもって感じております。

山崎院長を始め、家族や職員、周りの方に支えられながら歩んできた10年でした。本当にありがとうございます。



ミャンマーからようこそ

芸西病院だより編集委員 診療放射線技師 廣地 緑代



介護分

野での人手不足に対応するため、一定の専門性や技術を持ち即戦力となる外国人を労働者として受け入れる在留資格「特定技能外国人」をご存じですか？この制度のもと、7月にミャンマーより3名の仲間が入職してきました。異国での初めてづくしの中、イさん、サンさん、チョさんは元気に働いてくれています。彼女たちの素顔を知りたいとインタビューをしてみました。

Q: どうして介護の仕事を選んだ？
①イさん(1階内科病棟) 私はヤンゴンから来ました。子供たちに歴史や英語を教えていましたが、日本への憧れから日本語や介護の勉強をしました。試験はとて大変で

をかけてもらえるのがとてもうれしいです。
Q: ミャンマーの美味しいものを教えてください。
モヒンガー―あー食べた



Q: 日本での生活、辛いことや不安はありませんか？

以前ミャンマーの国内が大変だった時、日本はミャンマーを支えてくれました。ここでも皆優しく私たちを支えてくれていますから、とても幸せです。ミャンマーにいる家族のことを思うと寂しく心配になることもあります。スマホで声が聞けるから離れていても頑張れます。

まだ20代の彼女たちの話を聞きながら、日本へのふわりとした憧れだけではなく、かの国の重い内政の歴史もまた「日本で頑張る」という選択を後押ししていたのかと気づき、ハツとしました。
彼女たちが選んでくれたこの国で、この病院で、お互いを支え合い助け合いながら、ゆっくり「仲間」になっていきたいと思えます。

「アナベル」 No.75

支援事業所みずぎ
主任介護支援専門員

濱宇津 尚子



ガーデニングを始め、昨年から出会ったアナベルとゼラニウム。今回はアナベルを紹介したいと思います。

アメリカ原産のあじさいで、別名「アメリカあじさい」と呼ばれ一般的な紫陽花よりも開花期が長く、ポリウム感がある花房、花色が土壌のPHに左右されない、耐寒性・耐暑性ともに優れた特徴があります。初夏から晩秋まで花をつけるアナベルは、その間に花色をさまざまに変化し、咲き始めはライムグリーン↓真つ白↓緑に変化します。花が終わり剪定すると脇芽が伸び、また花芽を付け、長い期間楽しむことが出来ます。

一般的な旧枝咲き紫陽花(山アジサイ、額アジサイ)などは、初夏に花を咲かせた後、伸びた枝に翌年の花芽を



つけます。剪定の時期や位置を間違えると翌年花が咲かないということもあります。それに対して新枝咲きのアナベルは、花が咲き終わってから2月頃までに剪定をすれば、その年の初夏に花が咲きます。剪定の時期を気にせず初冬までの長い期間、花色の変化を楽しむことができるのです。
その後はドライフラワーで楽しんだり、花リースを作ったり。今年はドライフラワーで楽しんだ後に漂白剤に浸け、葉脈のきれいな真つ白いドライアナベルを作ることが出来ました。魅力たっぷりアナベルです。

やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念

その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につながるケアをめざす

令和5年度ふくし就職フェア

in 高知 かるぽーと 施設長 中本 雅彦



令和5年7月8日(土) 高知市文化プラザかるぽーとにて、高知県ふくし就職フェアが開催されました。コロナ禍が続いたここ数年は、参加を見合わせていましたが、今回は気合十分！私と新人介護福祉士大野さん、中堅介護福祉士小笠原さんの三人が参加しました。働く世代人口が急激に減少する中、あらゆる業種で人材争奪戦が激化しています。この日は久ぶりにお会いする医療介護福祉関係者が多数見られ、人材確保の厳しい現実を目の当たりにしながらも、外国人含む多様な人材確保や人を補い支援するICTやロボット等について前向きな情報交換ができました。



した。新人大野さんは当施設とは別メーカーの簡易走行リフトやスタンディングマシンなど貴重な体験もしました。

認知症予防講演会

「音楽でリズムも身体も元気になるっ！」

芸西村地域包括支援センターより感想

7月13日にリゾートビルやわらぎ音楽療法士繁谷美穂氏を講師にお招きし、認知症予防講演会「音楽療法〜音楽でこころも身体も元気になるっ〜」を開催しました。これまでコロナの影響で何度も開催断念を余儀なくされましたが、数年越しの待ちに待った開催となりました。当日は、村民とスタッフ合わせて41名もの参加があり、急ぎよ資料を増刷する一幕もありました。

講演会では、運動をすることの脳への効果と、そこに音楽活動が加わることで相乗効果を発揮するという、すばらしい内容のお話を聞かせていただきました。後半は、参加者全員で実際に音楽療法を体験しましたが、楽器を手に思い切っって音を鳴らすと、なんとも気分爽快で脳が活性化していくのがよくわかりました。

参加者から、「音楽はとても良い、とても楽しかった」「頭のモヤモヤがスッキリした」「トーンチャイムの音色がとても良かった、癒された」「久しぶりに音楽に合わせて体を動かした」「1時間があつという間に過ぎた」「定期的に開催してほしい」などのご感想をいただきました。

アンケートの中には「自分は耳が遠いのでよく聞こえなかったのですが、これがすべてよくわかったら、さぞ楽しいと思います」と、聞こえづらい方からの貴重なご感想もありました。聴力に関係なく、すべての方に満足していただける音楽療法を今後も期待しています。中本施設長はじめ講師の繁谷美穂さんに心よりお礼申し上げます、どうもありがとうございました。



第46回全国デイ・ケア研究大会2023 in 八王子

施設長 中本 雅彦

令和5年7月21日・22日の2日間、東京八王子たま未来メッセにて全国デイ・ケア研究大会が開催されました。24分科会に分かれ全国から100を超える演題発表、そして13の講演・シンポジウム、介護福祉機器展示と参加した2日間の後にオンデマンド聴講する程の、質・量ともに満たされた大会でした。日ごろの在宅支援・デイケア（通所リハビリ）運営を振り返りつつ、次年度の介護報酬改定を踏まえ、たくさんの方の情報交換と考える時間をいただきました。

さて、デイケアの要は「リハビリテーションマネジメント」となります。病院や診療所での治療的な個別リハビリテーションから生活期のリハビリテーションマネジメントへ移行する方が多くいます。リハビリ専門職に加え、看護・介護、家族等も含めた多職種チームでの個々の課題に応じた生活訓練を、デイケアの時間と場所に限らず、自宅やその他の活動場所でも環境を整備しご本人の意思にて取り組みます。

より効果的なリハビリテーションを実施するためには、施設自前の企業努力だけではおのずと限界があり、報酬改定又は専門職配置基準の見直し等が必要と考えます。当施設のように、PT/OT/STさらには音楽療法士まで配置している施設は全国的にまだまだ少なく、令和4年度の老人保健関連の生活期リハビリテーションにおける調査研究事業では、3専門職（P/O/S）の配置施設は調査施設の僅か28%の結果がありました。厚労省のめざす、健康寿命の延伸と要介護予防、重度化防止をめざし、在宅支援を充実していくためには、やはり専門職配置と質の高いマネジメントによるチームリハケアの取り組み強化が不可欠と考えます。さらには、これからの多様な在宅支援において、重度者に対するデイケアでの医療的ケアの強化と認知症への専門的ケア向上も必要と考え、訪問サービスを含め多様な在宅支援を展開していくためには、人材確保に反して、看護介護力の質・量強化も喫緊の課題です。



安芸圏域「福祉避難所研修会」

施設長 中本 雅彦

令和5年8月14日(月)令和5年度安芸福祉保健所管内福祉避難所研修会が安芸総合庁舎にて開催されました。当施設からは施設長・事務長・総師長等の計5名が参加



しました。福祉避難所の開設・運営について高知県担当より説明があり、その後避難所開設運営ゲーム(机上の訓練福祉施設版)HUG(Hinanzyo Unei Game)を他施設の方々と取り組みました。また段ボールベッドや災害時要配慮者を搬送・避難する際に活用できるグッズ等の体験利用もありました。



小山嘉信様

やわらぎを通所・短期入所・入所とフル活用しながら在宅生活を続けてこられた小山様、やわらぎでは硬筆クラブの顧問としてご指導いただいています。これまでもたくさんご寄贈いただいた書道作品、膝の痛みもあり筆を持つのは約1年ぶりとのことですが、小山さんにとって大切な時間となりました。



久礼田明伯様

(1階入所 佐藤恵美様のご親族)より、書道作品をご寄贈いただきました。いつもありがとうございます。





敬老会

100才以上のご利用者です

祝敬老会

祝100歳

100歳を迎えた大元さん、岸田総理より
お祝いの賞状と記念品が届けました

夏祭り



6

クラブ活動

生花クラブ



園芸クラブ



硬筆クラブ



はじめまして。やわらぎ療養部1階介護福祉士の樋口です。
 よろしくお願いたします。

私が夢中と言うより大好きなのは2匹の愛犬です。もともとは、正直なところ動物があまり好きでなほうではなかったのですが、息子が犬を飼いたいと強く訴えだしたのが、きっかけで飼う事になったのが始まりでした。初めて家に来たのがミックス犬です。とても元気な子で常に動きまわっています。しつけがとても大変ですが毎日一緒にいると動物が苦手な私でしたが、段々と可愛くてたまらなくなっていました。逆にいなくてはならない存在になってしまいました。ある時、1匹じゃ可哀想だなと思ってもう1匹飼う事に...2匹目はペキニーズを飼い始めました。最初は2匹の相性が悪く失敗？と思ったのですが一緒に散歩や遊んだりしていくうちに仲良くなってくれました。普段、動くことが苦手な私ですが2匹の散歩だけは苦にならず雨の日以外は毎日、楽しみに行っています。時々今日は...と思う事もありますが最終的には絶対に行っています。

息子の希望がきっかけですが、今では2匹がいらないのは考えられないくらい大好きな家族の一員になっています。何がきっかけで苦手なものが好きになるのか分からないなあと思いました。

無我夢中 ④2



やわらぎ1階
介護福祉士

樋口 純子

